

150 周年を迎えた伊藤忠商事

伊藤忠商事は、初代伊藤忠兵衛が滋賀県・豊郷村から大阪に向けて麻布の「持ち下り」の旅に発った安政 5（1858）年を創業の年としています。「売り手よし、買い手よし、世間よし」―初代忠兵衛が商道の原点としたこの「三方よし」の哲学を継承、実践してきた伊藤忠商事は、2008 年で創業 150 周年を迎えました。その間の歴史の風雪を乗り越えてきた旺盛なチャレンジ・スピリットは、時を越えて、独自の企業文化として根付いています。

表紙の「挑む遺伝子」：代表取締役社長 小林 栄三・筆



創業当時の金銭出納帳である「大福帳」

江戸時代から明治時代にかけて、商家などでは経理情報を「大福帳」で管理していました。

見通しに関する注意事項

このアニュアルレポートに記載されている伊藤忠商事の計画・戦略・見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な期待・見積り・予想に基づいています。これらの期待・見積り・予想は、経済情勢の変化・為替レートの変動・競争環境の変化・係争中及び将来の訴訟の結果・調達資金や金融商品・財源の継続的な有用性など多くの潜在的リスク・不確実な要素・仮定の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述に全面的に依拠することは差し控えるようお願いします。また、伊藤忠商事は新しい情報・将来の出来事等に基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。